

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2020-5743

(P2020-5743A)

(43) 公開日 令和2年1月16日(2020.1.16)

(51) Int.Cl.	F 1	テーマコード (参考)
A 4 7 F 5/10 (2006.01)	A 4 7 F 5/10 D	3 B 1 1 8
B 6 5 D 6/18 (2006.01)	B 6 5 D 6/18 A	3 E 0 6 1

審査請求 未請求 請求項の数 9 O L (全 11 頁)

(21) 出願番号	特願2018-127315 (P2018-127315)	(71) 出願人	394016874
(22) 出願日	平成30年7月4日 (2018.7.4)		河淳株式会社
			東京都中央区日本橋浜町3丁目15番1号
		(74) 代理人	110002538
			特許業務法人あしたば国際特許事務所
		(72) 発明者	大澤 真一
			東京都中央区日本橋浜町3丁目15番1号
			河淳株式会社内
		(72) 発明者	平野 文勇
			東京都中央区日本橋浜町3丁目15番1号
			河淳株式会社内
		Fターム(参考)	3B118 AA21 BB04 DA26
			3E061 AA05 CA02 DB11 DB17

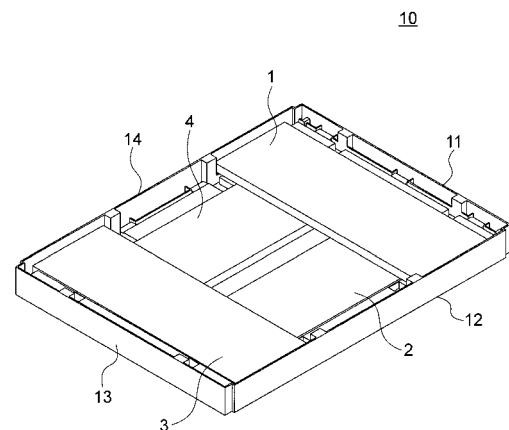
(54) 【発明の名称】 折り畳み収納ボックス

(57) 【要約】

【課題】 折り畳み後の積み重ね安定性がよく、折り畳み後、小側板間の隙間や大側板間の隙間が見えず、陳列の演出効果を高める折り畳み収納ボックスを提供する。

【解決手段】 底板と、底板の側端から起立する内寸法高さが H_1 の4つの第1小側板～第4小側板と、小側板の内側において回動自在にヒンジ結合され、起立することで、該小側板と協働で4つの大側板を形成する4つの第1中側板～第4中側板、を備え、第2中側板と第4中側板が折り畳まれ、その上に第1中側板と第3中側板が折り畳まれ、4つの中側板の折り畳み高さ H_2 は、該 H_1 より小である折り畳み収納ボックス。

【選択図】 図5



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

4つの辺部を有する底板と、

該底板の側端から起立する内寸法高さが H_1 の4つの第1小側板～第4小側板と、

該小側板の内側において回動自在にヒンジ結合され、起立することで、該小側板と協働で4つの大側板を形成する4つの第1中側板～第4中側板と、を備え、

対峙する第1中側板と第3中側板の第1ヒンジ結合は、対峙する第2中側板と第4中側板の第2ヒンジ結合より上方に位置し、第2中側板と第4中側板が折り畳まれ、その上に第1中側板と第3中側板が折り畳まれ、4つの中側板の折り畳み高さ H_2 は、該 H_1 より小であり、

第1中側板～第4中側板が起立するボックス形状において、第2中側板及び第4中側板のそれぞれの両側端面は、第1中側板及び第3中側板の内側面に当接していることを特徴とする折り畳み収納ボックス。

【請求項 2】

第1中側板と第3中側板は側面視において厚みに段差があり、第1中側板と第3中側板が起立状態において、厚みが小の下部がそれぞれ第1小側板と第3小側板の内側面に当接し、厚みが大の上部がそれぞれ第1小側板と第3小側板の上方に位置することを特徴とする請求項1記載の折り畳み収納ボックス。

【請求項 3】

第2中側板と第4中側板は側面視において厚みに段差があり、第2中側板と第4中側板が起立状態において、厚みが小の下部がそれぞれ第2小側板と第4小側板の内側面に当接し、厚みが大の上部がそれぞれ第2小側板と第4小側板の上方に位置することを特徴とする請求項1又は2記載の折り畳み収納ボックス。

【請求項 4】

第1中側板と第3中側板は互いに同一形状であり、第2中側板と第4中側板は互いに同一形状であることを特徴とする請求項1～3のいずれか1項に記載の折り畳み収納ボックス。

【請求項 5】

第1中側板と第3中側板の横方向長さは、第2中側板と第4中側板の横方向長さより小であることを特徴とする請求項1～4のいずれか1項に記載の折り畳み収納ボックス。

【請求項 6】

第1小側板～第4小側板の内側面で、且つ高さ方向におけるヒンジ結合位置より上方において、横方向に適宜のピッチで複数の内側に突出した突起を形成したことを特徴とする請求項1～5のいずれか1項に記載の折り畳み収納ボックス。

【請求項 7】

第1中側板～第4中側板には、ボックス形状において、該突起に嵌る切欠部を形成したことを特徴とする請求項6に記載の折り畳み収納ボックス。

【請求項 8】

底板の裏面には、折り畳み状態で積み重ねの際、第1小側板～第4小側板で囲まれる内側に嵌る高さ H_3 の脚部が形成されていることを特徴とする請求項1～7のいずれか1項に記載の折り畳み収納ボックス。

【請求項 9】

該 H_1 は、 $(H_2 + H_3)$ と同じ又は $(H_2 + H_3)$ より大であることを特徴とする請求項8に記載の折り畳み収納ボックス。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、量販店、スーパーなどで使用される収納箱兼商品陳列台として好適な折り畳み収納ボックスに関するものである。

【背景技術】

10

20

30

40

50

【0002】

量販店、スーパーなどで使用される収納箱兼商品陳列台として使用する折り畳み収納ボックスとしては、種々のものが提案されている。

【0003】

特開2013-31547号公報には、陳列商品が載置される平面視が長方形の天板と、脚部を兼ねる対峙位置にある一対の小側板と脚部を兼ねる対峙位置にある一対の大側板の都合4つの側板とから構成されるプラスチック製の折り畳みボックス状の台であって、該天板と該4つの側板とは、それぞれ係合凹部及び係合凸部で係合され、該天板と該大側板の上下方向における係合位置は、該天板と該小側板の上下方向における係合位置より該天板側にあり、折り畳みは、該天板の裏面に該大側板が該天板に略平行となるように折り畳まれ、次いで該大側板に重ねて該小側板が該天板及び該大側板に略平行となるように折り畳まれるものであることを特徴とする収納箱兼用折り畳み商品陳列台が開示されている。図は、折り畳み後の商品陳列台を示す。この本発明によれば、折り畳み構造であり、収納箱としても、また、前面開口が広い開口で、後方が囲み状の商品陳列台としても使用できる。

10

【0004】

一方、特開2013-31547号公報記載の折り畳み商品陳列台を、折り畳み状態として、これを数枚積み重ねて、商品陳列台として使用することがある。

【先行技術文献】

【特許文献】

20

【0005】

【特許文献1】特開2013-31547号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0006】

しかしながら、このような折り畳み状態として、これを数枚あるいは数十枚を積み重ねて、商品陳列台として使用する場合、折り畳まれた小側板間の隙間が見えてしまう。これでは、陳列する商品の商品イメージが悪くなり、陳列の演出としては好ましくない。また、特開2013-31547号公報記載の商品陳列台は、折り畳み後の積み重ねを想定しておらず、積み重ねると不安定となり、陳列台として使用はできない。そこで、折り畳み後の積み重ね安定性がよいこと、折り畳み状態で積み重ねられた陳列台としての使用の際、折り畳まれた小側板間の隙間が見えず、陳列の演出に悪影響しない折り畳み収納ボックスが望まれていた。

30

【0007】

従って、本発明の目的は、折り畳み後の積み重ね安定性がよく、折り畳み後、小側板間の隙間や大側板間の隙間が見えず、陳列の演出効果を高める折り畳み収納ボックスを提供することにある。

【課題を解決するための手段】

【0008】

すなわち、本発明は、上記従来の課題を解決したものであって、4つの辺部を有する底板と、該底板の側端から起立する内寸法高さが H_1 の4つの第1小側板～第4小側板と、該小側板の内側において回動自在にヒンジ結合され、起立することで、該小側板と協働で4つの大側板を形成する4つの第1中側板～第4中側板と、を備え、対峙する第1中側板と第3中側板の第1ヒンジ結合は、対峙する第2中側板と第4中側板の第2ヒンジ結合より上方に位置し、第2中側板と第4中側板が折り畳まれ、その上に第1中側板と第3中側板が折り畳まれ、4つの中側板の折り畳み高さ H_2 は、該 H_1 より小であり、第1中側板～第4中側板が起立するボックス形状において、第2中側板及び第4中側板のそれぞれの両側端面は、第1中側板及び第3中側板の内側面に当接していることを特徴とする折り畳み収納ボックスを提供するものである。

40

【0009】

50

また、本発明は、第1中側板と第3中側板は側面視において厚みに段差があり、第1中側板と第3中側板が起立状態において、厚みが小の下部がそれぞれ第1小側板と第3小側板の内側面に当接し、厚みが大の上部がそれぞれ第1小側板と第3小側板の上方に位置することを特徴とする前記折り畳み収納ボックスを提供するものである。

【0010】

また、本発明は、第2中側板と第4中側板は側面視において厚みに段差があり、第2中側板と第4中側板が起立状態において、厚みが小の下部がそれぞれ第2小側板と第4小側板の内側面に当接し、厚みが大の上部がそれぞれ第2小側板と第4小側板の上方に位置することを特徴とする前記折り畳み収納ボックスを提供するものである。

【0011】

また、本発明は、第1中側板と第3中側板は互いに同一形状であり、第2中側板と第4中側板は互いに同一形状であることを特徴とする前記折り畳み収納ボックスを提供するものである。

【0012】

また、本発明は、第1中側板と第3中側板の横方向長さは、第2中側板と第4中側板の横方向長さより小であることを特徴とする前記折り畳み収納ボックスを提供するものである。

【0013】

また、本発明は、第1小側板～第4小側板の内側面で、且つ高さ方向におけるヒンジ結合位置より上方において、横方向に適宜のピッチで複数の内側に突出した突起を形成したことを特徴とする前記折り畳み収納ボックスを提供するものである。

【0014】

また、本発明は、第1中側板～第4中側板には、ボックス形状において、該突起に嵌る切欠部を形成したことを特徴とする前記折り畳み収納ボックスを提供するものである。

【0015】

また、本発明は、底板の裏面には、折り畳み状態で積み重ねの際、第1小側板～第4小側板で囲まれる内側に嵌る高さ H_3 の脚部が形成されていることを特徴とする前記折り畳み収納ボックスを提供するものである。

【0016】

また、本発明は、該 H_1 は、 $(H_2 + H_3)$ と同じ又は $(H_2 + H_3)$ より大であることを特徴とする前記折り畳み収納ボックスを提供するものである。

【発明の効果】

【0017】

本発明によれば、4つの中側板の折り畳み後、中側板の折り畳み高さは、小側板の内寸法高さより小となるため、中側板は小側板である枠体内に完全に収納される。このため、折り畳み体を複数個、積み重ねた商品陳列台は、小側板間の隙間や大側板間の隙間が見えず、陳列の演出効果を高めることができる。また、折り畳み後は、小側板で囲まれた枠体同士の積み重ねとなり、安定した積み重ね状態となる。

【図面の簡単な説明】

【0018】

【図1】本発明の実施の形態における折り畳み収納ボックス（以下、単に「収納ボックス」と言う。）の斜視図である。

【図2】図1の収納ボックスを上下逆さにした斜視図である。

【図3】図1の収納ボックスの分解斜視図である。

【図4】図1の収納ボックスの対峙する第2と第4の中側板を折り畳んだ図である。

【図5】図1の収納ボックスの中側板を全て折り畳んだ図である。

【図6】図5の収納ボックスの折り畳み状態における一部の拡大平面図である。

【図7】図6において小側板及び底板から起立する起立部を塗りつぶすことで、中側板以外の部材を明確にした参考図である。

【図8】図4の $X_1 - X_1$ 線に沿って切断した図である。

10

20

30

40

50

【図 9】図 4 の X_2-X_2 線に沿って切断した図である。

【図 10】図 1 の収納ボックスの積み重ねを説明する図である。

【図 11】図 10 の収納ボックスの積み重ね部分の断面図である。

【図 12】図 1 の収納ボックスの陳列台としての使用例を示す図である。

【発明を実施するための形態】

【0019】

次に、本発明の実施の形態における収納ボックスを図 1～図 9 を参照して説明する。収納ボックス 10 は、4 つの辺部を有する略矩形状の底板 15 と、底板 15 の側端から起立する内寸法高さが H_1 の 4 つの第 1 小側板 11、第 2 小側板 12、第 3 小側板 13、第 4 小側板 14 と、小側板 11～14 の内側においてそれぞれ回動自在にヒンジ結合され、起立することで、小側板 11～14 と協働で 4 つの大側板を形成する 4 つの第 1 中側板 1、第 2 中側板 2、第 3 中側板 3、第 4 中側板 4 と、を備える。収納ボックス 10 において、第 1 小側板 11 と第 3 小側板 13 は同じ形状であり、第 2 小側板 12 と第 4 小側板 14 は同じ形状である。また、第 1 中側板 1 と第 3 中側板 3 は同じ形状であり、第 2 中側板 2 と第 4 中側板 4 は同じ形状である。

【0020】

収納ボックス 10 において、底板 15 の裏面は、大部分の下方へ突出する高さ H_3 の脚部 153 と縁部に形成された係合凹部 152 を備える。折り畳まれた収納ボックス 10 の係合凹部 152 が、下方の折り畳まれた収納ボックス 10 の小側板 11～14 の内側突起 113、123、133、143 に当接し、係合凹部 152 により形成された段差が、収納ボックスの横移動を規制するため、安定した積み重ね状態となる。収納ボックス 10 において、底板 15 の表面（上面）は、本例は平坦面であるが、折り畳まれる第 2 中側板 12 と第 4 中側板 14 が水平姿勢となる表面であればよく、脚部 153 の形状に沿った凹部を有する場合、凹部の端部コーナーに、第 2 中側板 12 と第 4 中側板 14 が当たり上げ底となる突起部材を形成してもよい。

【0021】

収納ボックス 10 において、対峙する第 1 中側板 1 と第 3 中側板 3 の第 1 ヒンジ結合 111、131 は、対峙する第 2 中側板 12 と第 4 中側板 14 の第 2 ヒンジ結合 121、141 より上方に位置し、第 2 中側板 2 と第 4 中側板 4 が折り畳まれ、その上に第 1 中側板 1 と第 3 中側板 3 が折り畳まれる。そして、4 つの中側板 1～4 の折り畳み高さ H_2 は、小側板の内寸法高さ H_1 より小である（図 11 参照）。これにより、折り畳み状態において、4 つの中側板 1～4 は、側面視において、小側板で形成される枠体内に隠れるように完全に収納される。なお、本例では、底板 15 には、高さ H_3 の脚部 153 が形成され、且つ折り畳まれた中側板 1～4 の上には、更に高さ H_3 より大の高さ H_4 の隙間が形成されている。このため、例えば、2 つの収納ボックス 10、10 を積み重ねると、底板 15 の脚部 153 2 は、下方の折り畳まれた収納ボックス 10 内に埋没するため、収納ボックス 10、10 は、側面視において中側板などの中身が見えず、小側板 11～14 しか見えない。

【0022】

収納ボックス 10 において、第 1 小側板 11 と第 1 中側板 1 との関係について説明する。第 1 小側板 11 は薄板状であり、第 1 小側板 11 の内側で且つ少し離れた対峙位置には、第 1 小側板 11 の高さより低い高さの内壁 112 が形成されている。内壁 112 には、第 1 中側板 1 を回転自在に付設されるヒンジ結合部 122 のヒンジ軸 111 が、幅方向（横方向）に適宜のピッチで 3 箇所付設されている。ヒンジ軸 111 の形成位置は、第 1 中側板 1 と第 3 中側板 3 を折り畳んだ際、折り畳まれた第 2 中側板 2 及び第 4 側板 4 上に、概ね隙間なく、好ましくはほとんど隙間なく重ねられる位置である。また、第 1 小側板 11 の内側面には、幅方向（横方向）に適宜の距離、離れた位置に、内側に突出すると共に高さが第 1 小側板 11 と同じ四角柱状の突起 113、113 が形成されている。四角柱状の突起 113、113 の内側面（外側面）と内壁 112 の内側面（外側面）は面一となっている。突起 113 は、折り畳まれた収納ボックス 10 が積み重ねられる際、上方の収

納ボックス 10 の底板 15 に形成された係合凹部 152 に嵌る（当接する）ものである。これにより、上方の収納ボックス 10 の固定が安定する。内壁 112 の厚みは、第 1 中側板 1 が起立状態の際、内壁 112 の内側の面（外面）が、第 1 中側板 1 の内面と面一となるものが好ましい。これにより収納ボックス 10 をボックスとして使用する際、大側板の内壁面が平坦面となり、内容積が増す。第 1 小側板 11 は、ボックス形状において、側板（大側板）の一部を構成するものであり、折り畳み形状において、側板の全部を構成するものである。ヒンジ結合部 122 はヒンジ軸 111 と、ヒンジ軸 111 が嵌る切欠部孔が形成された結合突起体で構成される。

【0023】

第 1 中側板 1 は、第 1 小側板 11 より厚みが大である板状体であり、厚みが薄い下部 11a と厚みが大の上部 11 が段差を形成して繋がっている。厚みが小の下部が第 1 小側板の内側面に当接し、厚みが大の上部が第 1 小側板の上方に位置する。下部 11a には、幅方向（横方向）に適宜の距離、離れた位置に、下端から上方に切り欠かれた四角柱状の突起 113 に対応する切欠部 133、133 が形成されている。また、下部 11a の下端には、幅方向（横方向）に適宜の距離、離れた位置に、ヒンジ軸 111 に係止するヒンジ結合部 122 が形成されている。第 1 中側板 1 は、ヒンジ結合部 122 がヒンジ軸 111 に回動自在に係止され、起立状態において、上部 11 と下部 11a の境界である段差が第 1 小側板 11 の上面に載ると共に、第 1 小側板 11 と第 1 中側板 1 と協働で大側板を形成する。この大側板は、第 1 小側板 11 の外面と第 1 中側板 1 の外面が面一となるため、ボックス使用においては、ひとつの側板のような印象を与える。本例では、第 1 小側板 11 の横方向長さと、第 1 中側板 1 の横方向長さは同じである。なお、収納ボックス 10 において、第 1 小側板 11 及び第 1 中側板 1 と対峙する第 3 小側板 13 及び第 3 中側板 3 は、第 1 小側板 11 及び第 1 中側板 1 の関係と同じであり、その説明を省略する。

【0024】

収納ボックス 10 において、第 4 小側板 14 と第 4 中側板 4 との関係について説明する。第 4 小側板 14 と第 4 中側板 4 において、第 1 小側板 11 と第 1 中側板 1 と異なる点は、横方向長さが共に長い点、横方向長さが長いために、ヒンジ軸 141 の設置数を 1 つ多い 4 つとした点、第 4 小側板 14 の内壁 142 の高さが第 1 小側板 11 の内壁 112 の高さより低い点である。

【0025】

すなわち、収納ボックス 10 において、第 4 小側板 14 は薄板状であり、第 4 小側板 14 の内側で且つ少し離れた対峙位置には、第 4 小側板 14 の高さより低く、且つ第 1 小側板 11 の内壁 112 より低い高さの内壁 142 が形成されている。内壁 142 には、第 4 中側板 4 を回転自在に付設されるヒンジ結合部 42 のヒンジ軸 141 が、幅方向（横方向）に適宜のピッチで 4 箇所付設されている。ヒンジ軸 141 の形成位置は、折り畳んだ第 4 中側板 4 が底板 15 上に略水平状態に横たわるような位置である。また、第 4 小側板 14 の内側面には、幅方向（横方向）に適宜の距離、離れた位置に、内側に突出すると共に高さが第 4 小側板 14 と同じ四角柱状の突起 143、143 が形成されている。四角柱状の突起 143、143 の内側面（外側面）と内壁 142 の内側面（外側面）は面一となっている。突起 143 は、折り畳まれた収納ボックス 10 が積み重ねられる際、上方の収納ボックス 10 の底板 15 に形成された係合凹部 152 に嵌る（当接する）ものである。これにより、上方の収納ボックス 10 の固定が安定する。内壁 142 の厚みは、第 4 中側板 4 が起立状態の際、内壁 142 の内側の面（外面）が、第 4 中側板 4 の内面（外面）と面一となるものが好ましい。これにより収納ボックス 10 をボックスとして使用する際、大側板の内壁が平坦面となり、内容積が増す。第 4 小側板 14 は、ボックス形状において、側板（大側板）の一部を構成するものであり、折り畳み形状において、側板の全部を構成するものである。

【0026】

第 4 中側板 4 は、第 4 小側板 14 より厚みが大である板状体であり、厚みが薄い下部 41a と厚みが大の上部 41 が段差を形成して繋がっている。厚みが小の下部が第 4 小側板

の内側面に当接し、厚みが大の上部が第4小側板の上方に位置する。下部41aには、幅方向（横方向）に適宜の距離、離れた位置に、下端から上方に切り欠かれた四角柱状の突起143に対応する切欠部43、43が形成されている。また、下部41aの下端には、幅方向（横方向）に適宜の距離、離れた位置に、ヒンジ軸141に係止するヒンジ結合部42が形成されている。第4中側板4は、ヒンジ結合部42がヒンジ軸141に回動自在に係止され、起立状態において、上部41と下部41aの境界である段差が第4小側板14の上面に載ると共に、第4小側板14と第4中側板4と協働で大側板を形成する。この大側板は、第4小側板14の外面と第4中側板4の外面が面一となるため、ボックス使用においては、ひとつの側板のような印象を与える。なお、第1小側板11と第4小側板14の接続部（コーナー部）は、段差構造となっている。すなわち、第4小側板14の両端部は、内側に折れて段差となっており、第4中側板4の横方向長さは、第4小側板14の段差までの横方向長さと同じである。第1小側板11と第4小側板14の接続部（コーナー部）を、段差構造とすることにより、第1中側板1～第4中側板4が起立状態のボックス形状となったとき、第1小側板11～第4小側板14で形成される外面と第1中側板1～第4中側板4で形成される外面が面一となり、意匠性が優れたものとなる。なお、収納ボックス10において、第4小側板14及び第4中側板4と対峙する第2小側板12及び第2中側板2は、第4小側板14及び第4中側板4の関係と同じであり、その説明を省略する。

【0027】

収納ボックス10において、底板15と第1小側板11～第4小側板14は一体ものである。このため、この一体ものに対して、4つの第1中側板1～第4中側板4を取り付けられれば、収納ボックス10が得られる。取り付け方法は、ヒンジ軸に第1中側板1～第4中側板4の結合突起体を係止してヒンジ結合部を形成すればよい。

【0028】

収納ボックス10において、ボックスを使用する場合、第1中側板1～第4中側板4を起立させる（図1参照）。起立順序は、第1中側板1及び第3中側板3を起立させ、その後、第2中側板2及び第4中側板4を起立させる。その際、第2中側板2及び第4中側板4のそれぞれの両側端面は、第1中側板1及び第3中側板3の内側面（中側板の内側面）に当接している。これにより、第1中側板1及び第3中側板3は、内側に折り畳めない。第1中側板1～第4中側板4の起立状態において、第1小側板11～第4小側板14に形成された柱状の突起部113等は、第1中側板1～第4中側板4の切欠部133等に嵌っている。なお、第2中側板2又は第4中側板4には、この状態から折り畳めないロック機構を有するものが好ましい。ロック機構としては、例えば、第2中側板2及び第4中側板4の両端面に、弾性体により出没自在に埋め込まれたピンまたはボールを付設し、第1中側板1及び第3中側板2の対応する内側の面には、ピンまたはボールと嵌る係止孔を形成したものが挙げられる（不図示）。なお、第1中側板1～第4中側板4は、下部11a～14aが第1小側板11～第4小側板14の内側に位置しており、外側に倒れることはない。

【0029】

ボックス状態の収納ボックス10は、上面が開口のボックスであり、第1小側板11～第4小側板14と第1中側板1～第4中側板4は、外側の面及び内側の面はそれぞれ面一であり、一体の側板を形成しているように見えるため、意匠性を保持しており、また、内面に凹凸がないため、使い勝手がよい。なお、ボックス状態の収納ボックス10は、図2のように、上下逆さとして、陳列台として使用してもよい。

【0030】

次に、収納ボックス10を折り畳んで、複数台を積み重ね、陳列台として使用方法について説明する。ボックス状態の収納ボックス10において、第2中側板2及び第4中側板4を内側に折り畳む（図4参照）。この際、第2中側板2及び第4中側板4は、底板15上に水平姿勢で折り畳まれる。次いで、第1中側板1及び第3中側板3を内側に折り畳む（図5参照）。この際、第2中側板2及び第4中側板4は、折り畳まれた第1中側板

1 及び第 3 中側板 3 上に隙間なく、水平姿勢で折り畳まれる。収納ボックス 1 0 において、4 つの中側板 1 ～ 4 の折り畳み高さ H_2 は、小側板の内寸法高さ H_1 より小である（図 1 1 参照）。また、これにより、折り畳み状態において、4 つの中側板 1 ～ 4 は、側面視において、小側板で形成される枠体内に隠れるように完全に収納される。また、底板 1 5 の脚部 1 5 3 の高さ H_3 は、折り畳まれた中側板 1 ～ 4 の上の隙間 H_4 より小であり、底板 1 5 の脚部 1 5 3 が、小側板の中に入り込んだ積み重ね収納が可能となる。

【0 0 3 1】

折り畳んだ収納ボックス 1 0 を複数個、準備し、これを積み重ねて陳列台 2 0 として、使用することができる（図 1 1 及び図 1 2）。収納ボックス 1 0 の陳列台 2 0 としての使用によれば、小側板で囲まれた枠体の積み重ねと同じであり、上方の小側板で囲まれた枠体の下面と、下方の小側板で囲まれた枠体の上面とが当接するため、側面視において、隙間は存在しない。このため、陳列の演出効果を高めることができる。また、折り畳み収納ボックス 1 0 内の上方には、隙間 H_4 が形成されており、展示用垂れ幕、ピン類などの小物を外部から見えないように、収納することができる。

【0 0 3 2】

本発明は、上記実施の形態例に限定されず、種々の変形を採ることができる。例えば、第 1 小側板～第 4 小側板で形成される四隅の角部の段差はなくてもよい。この場合、ボックス形状において、第 1 小側板～第 4 小側板で形成される四隅に隙間ができるものの、折り畳み後の積み重ねにおいては、最上部の収納ボックスを除いて、この隙間は隠される。また、収納ボックスにおいて、柱状の突起部の形状や数、ヒンジの形式や数などは適宜決定すればよい。また、収納ボックスにおいて、底板の裏面の脚部はなくてもよい。

【産業上の利用可能性】

【0 0 3 3】

本発明によれば、収納ボックスとしての使用、折り畳んだ収納ボックスの複数個を使用して陳列台としての使用が可能となる。折り畳み後は、中側板が小側板である枠体内に完全に収納されるため、側板間の隙間が見えず、陳列の演出効果を高めることができる。また、小側板で形成される枠体同士の積み重ねとなるため、安定して積み重ね状態となる。

【符号の説明】

【0 0 3 4】

1	第 1 中側板
2	第 2 中側板
3	第 3 中側板
4	第 4 中側板
1 0	収納ボックス
1 1	第 1 小側板
1 2	第 2 小側板
1 3	第 3 小側板
1 4	第 4 小側板
1 5	底板
2 0	陳列台

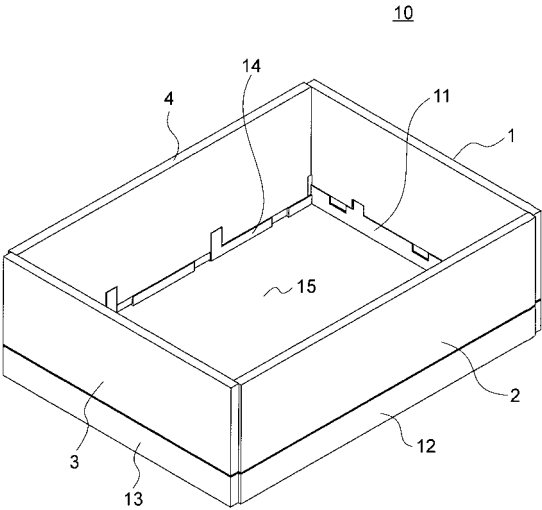
10

20

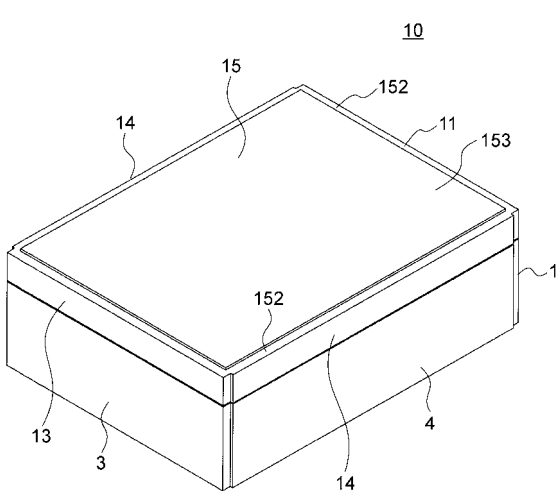
30

40

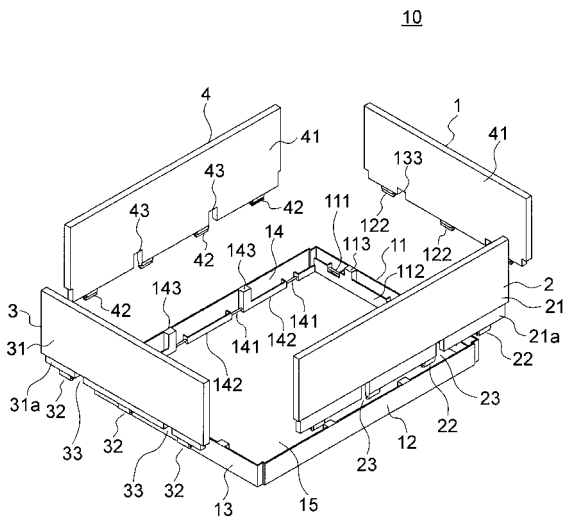
【図 1】



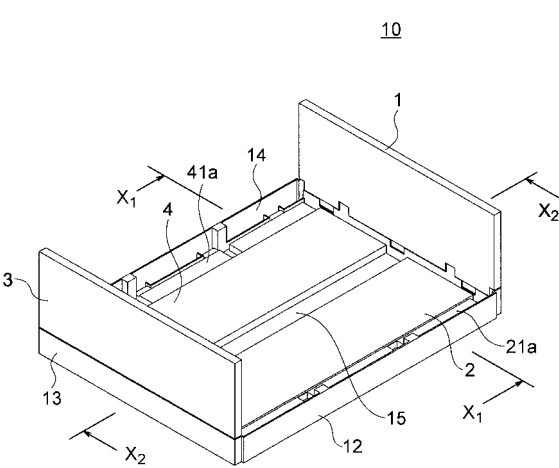
【図 2】



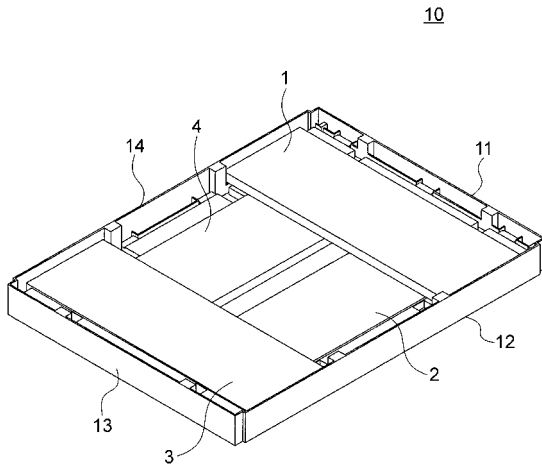
【図 3】



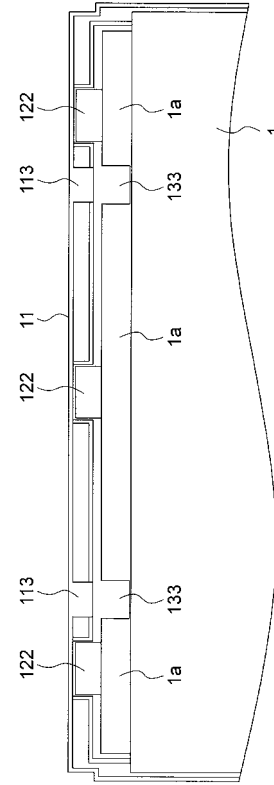
【図 4】



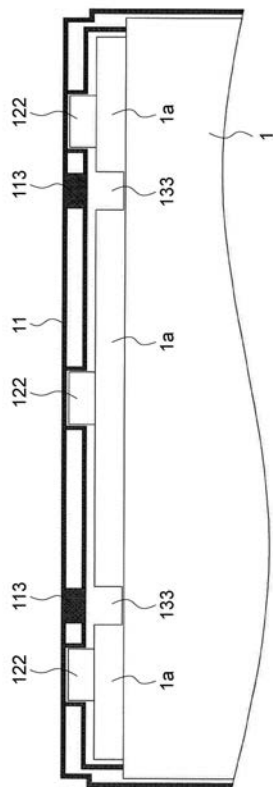
【図 5】



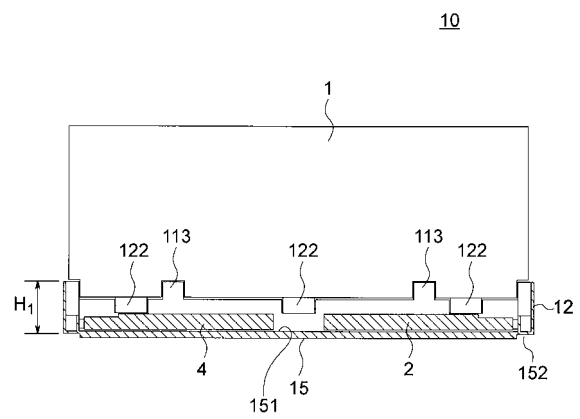
【図 6】



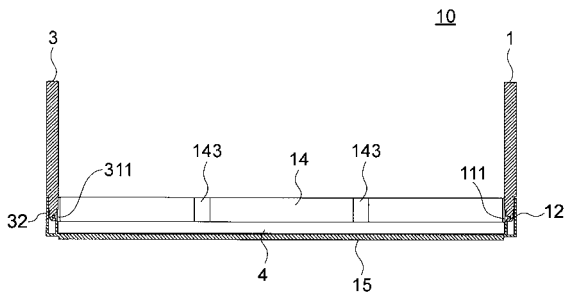
【図 7】



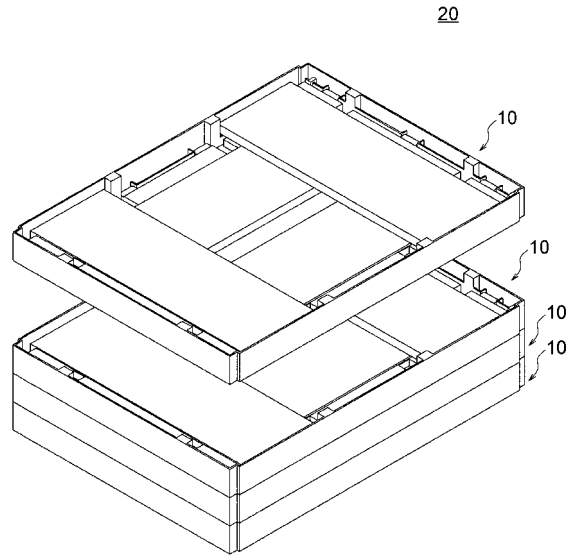
【図 8】



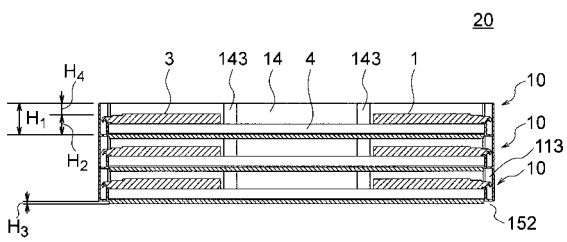
【図 9】



【図 10】



【図 11】



【図 12】

